

# 教職科目におけるジグソー法の実践と課題

友野清文

## はじめに 実践の目的

筆者は先に「ジグソー法の背景と思想—学校文化の変容のために—」(『学苑』895号 2015年5月)で、協同学習の一つであるジグソー法の背景と目的についての検討を行った。また初めて実際に授業で行った経緯についてもごく簡単に触れた。ジグソー法の効果についての研究やその意義については、拙稿「アクティブ・ラーニングの教育思想史的源流—E・Aronsonのジグソー法の理念を中心に—」(青山学院大学教職課程指導室『青山学院大学 教職研究』第2号 2016年4月刊行予定)で整理を行った。

これらはジグソー法についての文献を踏まえて、その理論や歴史を扱ったものであるが、その作業と並行して筆者が担当している授業で、引き続きジグソー法を試みた。本稿では、その授業報告と検討を行う。

筆者はこれまでもグループワークを中心とした授業を行ってきたが、必ずしも円滑に進まない場面も多かった。当然のことであるが、グループに分けることで直ちに話し合いや共同作業ができるのではない。そのため資料やテーマ、まとめ方について試行錯誤を行ってきたが、2014年に偶然のことから「ジグソー法」について知り、この方式を試みた。学習者がより主体的に、協同的に学ぶことで内容の理解を深めることが目的である。

## 1 ジグソー法と先行実践例について

ジグソー法は社会心理学者のエリオット・アロンソンが1971年に考案したグループ学習の技法である。簡単に言えば、グループ(ジグソーグループ)で読み合う資料を分割し、同じ資料を担当する生徒が別にグループ(エキスパートグループ)を作って読み込み、元のグループで各自の担当部分を教え合う peer tutoring である。資料は担当部分しか渡されないため、全体を理解するためには同じグループの仲間の説明を良く聞いて理解しなければならず、逆に自分の担当の内容は責任を持って伝えなければならない。「技能としての協力 (cooperation as a skill)」を学ぶことが目的とされているのである。<sup>1)</sup>

日本でのジグソー法の実践事例としては、<sup>あららぎちとし</sup>蘭千寿(1981, 1983)が最も早い。蘭は小学校高学年の児童を対象として、アロンソンがジグソー教材の事例として繰り返し挙げているジョゼフ・ピューリッツァーの伝記と、江戸時代の干拓についての資料でジグソーを用いた授業を行い、その前後での成績や学習態度を比較し、いずれの点でも肯定的な変化があったことを報告している。また筒井昌博(1999)は、静岡県の公立中学校の教員たちによるジグソー法実践を整理している。さらに看護教育の場での実践報告として、緒方巧(2013)の連載がある。

教員養成の場での報告としては、国立教育政策研究所(2015)の第2章第6節「LTD<sup>2)</sup> 話し合い学習法: 理想的な学習・対話法(安永悟)」の中でジグソー学習も取り入れた実践が紹介されている。<sup>3)</sup>

## 2 授業の実施

### (1) 授業の概要

ジグソー法を実施したのは、筆者が本年度担当していた教職科目の「教育原理」と「特別活動の研究」においてである。「教育原理」は教職科目の入門的性格を持っており、受講学生の多くが1年生である。「特別活動の研究」の開講中心年次は2年生であるが、1年生から履修が可能となっており、また教育実習を行うための要件科目ではないため、受講学生は1年生から4年生までいる。

ジグソー法を実施したのは以下の授業である（いずれも2015年）。

- [1] 7月11日 教育原理 前期 第13回 学校とはどのようなものか (1) —近代教育の出発—
- [2] 7月18日 教育原理 前期 第14回  
学校とはどのようなものか (2) —これからの学校制度について—
- [3] 10月24日 教育原理 後期 第4回 教育とは何か (1) —遺伝か環境か—
- [4] 11月6日・7日 教育原理 後期 第6回 教育とは何か (3) —発達の最近接領域—
- [5] 11月27日・28日 教育原理 後期 第8回 教育についての思想 (1) —コメニウス—
- [6] 12月1日 特別活動の研究 後期 第8回 学校行事 (1)

受講生は、教育原理の前期（土曜日1講時）が57人（1年生53人、2年生2人、3年生1人、4年生1人）、後期は二コマあり、金曜日1講時が18人（1年生13人、2年生3人、3年生2人）、土曜日1講時が22人（1年生21人、2年生1人）である。特別活動の研究（後期）は59人（1年生26人、2年生16人、3年生16人、4年生1人）である。

（[4] と [5] は、金曜日と土曜日とで同じ内容を行った。[3] は土曜日のみ。）

### (2) 授業デザイン

ジグソー法を活用する授業は概ね以下のような手順で行った。

- 1 元のグループ（ジグソーグループ）を授業の冒頭で指定する。通常の授業でもグループワークを行っているので、この作業はいつもと同じである。<sup>4)</sup> 資料を四分割するため、1グループに最低4人は必要となるので、5人のグループも作り、当日欠席者がいれば、適宜移るようにする。
- 2 授業の内容の概略とグループで読み取る資料について説明を行う。
- 3 ジグソーグループで読む資料（①～④）の担当を決める。これはじゃんけんでもその他の方法でもよい。資料はまだ配布していないので、短時間でランダムに決める。ここまです約20分である。
- 4 担当者毎のグループ（エキスパートグループ）に移動する。エキスパートグループはその場で4～5人のグループを作ることになる。
- 5 グループ毎に担当部分の資料を配布する（後から述べるように、教育原理の最初の回では、前もって全員に資料を配付した）。
- 6 エクスパートグループで資料の読解を行う。時間は20分～30分程度である。
- 7 資料が理解できたら、元のジグソーグループに戻り、お互いに説明をし合う。時間はやはり20分～30分程度とする。
- 8 まとめの課題を与え、個別に記入する。

以上が各授業で共通の進め方である。次に各回の内容について述べる。

### (3) 各回の授業の内容

[1] 7月11日 教育原理 前期 第13回 学校とはどのようなものか (1) —近代教育の出発—

#### 【資料の内容】

資料は以下の4点である。

資料① 学制布告文<sup>5)</sup>

資料② 学制本文<sup>6)</sup>

資料③ 小学教師心得<sup>7)</sup>

資料④ 小学校生徒心得<sup>8)</sup>

「学制」は1872(明治5)年に公布された学校制度の構想である。国民皆学の理念を実現するために、学区制により、大学校・中学校・小学校を置くという中央集権的な制度であった。「学制布告文(被仰出書)」は学制の前文に相当する文書であり、職業や性別などにかかわらずすべての国民が学校に通い、「実学」を学ぶことを求めている。「小学教師心得」は東京師範学校校長の諸葛信澄(1849年～1880年)が著した『補正小学教師必携』(1875年)の緒言であり、近代学校(公教育)の教師としてのあり方が述べられている。「小学校生徒心得」は各県で作られた小学校の生徒(当時は「児童」ではなく「生徒」と言われた)としての振る舞い方を具体的に示したものである。いずれも明治初期の資料であり、「思想、制度、教師、子ども」から日本の近代学校制度の始まりを確認することをねらいとしていた。

#### 【授業の進め方】

冒頭に図1-1のレジュメを配布した。ジグソー法は初めてであるので、手順の説明も行った。

教育原理(土1)⑬	2015年7月11日
<b>学校とはどのようなものか(1)</b> —近代教育の出発—	
<b>はじめに</b> 今回と次回は「学校とはどのようなものか」を見ていきます。 今回は明治初期の学校教育の思想と構想を資料から考えます。	
<b>今日の目標</b> 1 前回配付資料(①～④ 3枚)をグループで読み、 2 明治初期(近代日本の出発)にあたって、学校教育についてどのような考え方があり、どのような教育が目指されたのかをまとめる。	
<b>今日の進め方(「ジグソー法」に挑戦!)</b> 1 5人グループ(ジグソーグループ)になる。 2 担当の資料を決める。 3 ①の資料を担当した人のグループ(エキスパートグループ)を作り、資料を読み合う。(②～④も同様) 4 ジグソーグループに戻り、担当部分を説明し合って、各自でまとめる。	

図1-1 レジュメ

今回は資料①～④を全員に事前に配布した。エキスパートグループを作り資料の内容を確認した後、元のジグソーグループに戻って説明を行った。その上で図1-2のシートに記入した。

教育原理⑬	2015年7月11日
	氏名 _____
①～④の資料から、明治初期の学校教育について、	
1 どのようなことを目指していたのか。	
2 どのような学校制度を構想したのか。	
3 教師にはどのようなことが求められたのか。	
4 子どもにはどのようなことが求められたのか。	
を自分なりの言葉でまとめてください。	

図1-2 個人のまとめシート<sup>9)</sup>

### 【授業の振り返り】

事実上初めての試みであり、多くの課題が残るものとなった。その主なものは以下の通りである。

- (1) 問題提起や資料についての事前説明が十分でなく、授業のテーマがはっきりしなかった。
- (2) 資料自体の読みが難しい部分があり、エキスパートグループで時間不足の場合があった。同じ時間で読める資料を用意することが重要であることを確認できた。
- (3) エキスパートグループは当日決めることになるため、きちんとしたグループになっていない場合があった。
- (4) 最後の個人のまとめで、他のメンバーのメモを書き写す場面があった。そのようにして書けるような課題設定にしたことが問題であった。

### [2] 7月18日 教育原理 前期 第14回

学校とはどのようなものか (2) —これからの学校制度について—

### 【資料の内容】

資料は以下の4点である。(図2-1)

資料① 『『多様な教育機会確保法(仮称)案』【概要】[座長試案]』<sup>10)</sup>

「多様な教育機会確保法(仮称)の今国会での成立を期す要請文」<sup>11)</sup>

資料② 不登校 フリースクール<sup>12)</sup>

資料③ 不登校 ホームエデュケーション<sup>13)</sup>

資料④ 夜間中学校<sup>14)</sup>

### 【授業の進め方】

前回の反省から、問題提起(授業のテーマ)や資料の内容、そしてエキスパートグループでの確認事項をやや詳しくレジュメにまとめ、授業の冒頭で説明をした。図2-1は配布したレジュメである。資料は当日、エキスパートグループでの担当部分だけ渡した。

教育原理(土1)⑭	2015年7月18日
学校とはどのようなものか(2) —これからの学校制度について—	
テーマ これからの義務教育制度のあり方を考える	

#### 進め方 前回と同様の「ジグソー法」

- 1 5人グループ（ジグソーグループ）になる。
- 2 担当の資料を決める。資料は担当者だけに渡します。
- 3 ①の資料を担当した人のグループ（エキスパートグループ）を作り、資料を読み合う。  
（②～④も同様）
- 4 ジグソーグループに戻り、担当部分を説明し合って、各自でまとめる。

#### 問題の背景と内容

前回に見たように、明治の初めに、すべての子どもが通う小学校が制度化されました。この制度は基本的には現在まで続いています。

この制度では、親に「就学義務」が課せられ、義務教育段階の子どもは小学校・中学校に通うこととなっています。これは遠くはかつてコメニウスが唱えた「すべての人に（すべてのことを）」という理念の具体化であり、現代の日本について言えば、憲法の保障する教育権・学習権の実現です。

しかし他方で、一律の学校を子どもに「強制」することには様々なひずみが出ており、不登校の子どもは10万人を超えています。そのような子どもたちのための、学校に代わる学びの場（フリースクール）等があります。しかしこれらはあくまでも「例外」であって、正規の学びの場としては認められていません。

また義務教育を十分に終えないまま大人になり、夜間中学（中学校夜間学級）に通う人もいます。

このような現状を踏まえて、今、義務教育段階での学習の場を多様化しようという議論が行われています。今日はその議論と背景を資料から読み取り、これからの学校教育制度を考えていきます。

#### 資料について

##### ①-1 「多様な教育機会確保法（仮称）案」【概要】[座長試案]

義務教育の段階における普通教育の多様な機会の確保に関する法律案（仮称）

2015年5月27日

「超党派フリースクール議員連盟」と「夜間中学校等義務教育拡充議員連盟」の合同総会で承認された法律案

##### ①-2 「多様な教育機会確保法（仮称）の今国会での成立を期す要請文」

NPO法人フリースクール全国ネットワーク・多様な学び保障法を実現する会

2015年6月16日

エキスパートグループで確認すること

- (1) 法案の概要
- (2) 法案のポイント
- (3) 法案の問題点・課題

##### ② 文部科学省「不登校に関する調査研究協力者会議（第4回）・フリースクール等に関する検討会議（第4回）」合同会議での配付資料

2015年4月14日

不登校の子どもへの保護者手記（1）フリースクール等に関わって

エキスパートグループで確認すること

- (1) 手記の概要
- (2) フリースクールから見た現在の制度の課題
- (3) フリースクールから見た望ましい制度

##### ③ ②と同じ

不登校の子どもへの保護者手記（2）ホームエデュケーション

エキスパートグループで確認すること

- (1) 手記の概要
- (2) ホームエデュケーションから見た現在の制度の課題

##### ④ 夜間中学（中学校夜間学級）について

- (1) 中学校夜間学級等に関する実態調査について（平成27年5月）
- (2) 日本教育新聞 2015年5月25日付
- (3) 読売新聞（Yomiuri Online）2015年5月22日付

エキスパートグループで確認すること

- (1) 実態調査の概要
- (2) 2本の記事の概要
- (3) 夜間中学から見た望ましい制度

図2-1 レジューメ

エキスパートグループとジグソーグループでの活動の後、図2-2にまとめを記入した。

教育原理④	2015年7月18日
氏名 _____	
①～④の資料の内容を各々まとめた上で、学校教育をめぐる制度について、どのようなあり方が望ましいと考えるのかを自分なりの言葉で書いてください。	

図2-2 個人のまとめシート

【授業の振り返り】

前回は踏まえ修正を行ったことで、学習内容は明確になっていた。ただ以下のような課題は残っていた。

- (1) 前回に比べ資料の読み取りでの難しさはあまりなかったが、資料①がそれ以外に比べ時間がかかった。難易度と分量を揃えた資料を作成することが難しい。
- (2) 個人まとめは、課題が漠然としており、資料の内容を踏まえて書かせることが難しかった。

[3] 10月24日 教育原理 後期 第4回 教育とは何か (1) — 遺伝か環境か —

【資料の内容】

南新秀一・佐々木英一・吉岡真佐樹編著『新・教育学 [第2版]』(ミネルヴァ書房 2009年)の第2章「発達と教育」から抜粋をして以下の4種類の資料を用意した。

- 資料① 遺伝論について<sup>15)</sup>
- 資料② 環境論について<sup>16)</sup>
- 資料③ 二要因説 (1) 輻輳説 (シュテルン)<sup>17)</sup>
- 資料④ 二要因説 (2) 環境閾値説 (ジェンセン)<sup>18)</sup>

人の能力や資質がどのように決定されるのかについての古典的議論を紹介したものであり、①はフランス・ゴールトンの「優生学」やゲゼルの「成熟説」、②はジョン・ロックの「白板」や行動主義心理学、③と④は遺伝と環境の双方が影響を持つという「二要因説」を扱った部分である。

【授業の進め方】

後期でのジグソー法は初めてであるので、内容とともに改めて手順を示した。図3-1、図3-2はレジュメと個人のまとめである。

教育原理 (土1) ④	2015年10月24日
<b>教育とは何か (1)</b> — 遺伝か環境か —	
<b>はじめに</b> 人の能力や資質は何によって決まるのでしょうか？ 古くから「遺伝」(nature)か「環境」(nurture)かという議論があります。 今日はそれについての資料を「ジグソー法」を使って読み合います。	
<b>進め方 「ジグソー法」</b> 1 4人グループ (ジグソーグループ) になる。 2 担当の資料を決める。資料は担当者のみに渡します。 3 ①の資料を担当した人のグループ (エキスパートグループ) を作り、資料を読み合う。(②～④も同様) 4 ジグソーグループに戻り、担当部分を説明し合って、各自でまとめる。 5 確認	
資料① 遺伝論について	資料② 環境論について
資料③ 二要因説 (1) 輻輳説	資料④ 二要因説 (2) 環境閾値説

図3-1 レジュメ

内容確認（提出してください）

- (1) ゲゼルの実験の方法と結果についてまとめてください。  
 (2) 遺伝論と環境論の「違い」と「共通点」は各々何ですか？  
 (3) ジェンセンの環境閾値説はどのような考えですか？

図3-2 個人のまとめシート

## 【授業の振り返り】

この回がジグソー法本来のあり方に最も近いと言える。つまり一つの資料（本の一章）を分割して、各々を読み合う形である。難易度については④がやや難しかった他はほぼ同じ程度であった。

個人のまとめから、ほぼ内容が理解されていることを確認できた。

[4] 11月6日・7日 教育原理 後期 第6回 教育とは何か (3) —発達最近接領域—

## 【資料の内容】

Carol Garhart Mooney *Theories of Childhood, Second Edition* (Redleaf Press 2013) の Chapter 5 Lev Vygotsky の抜粋をテキストとした。内容は「相互作用による発達」と「発達の最近接領域」についてである。英語への抵抗感のある学生もいるが、日本語で適当なテキストが見つからなかったこと、非常に簡潔にまとめられていることからこれを使用した。各部分の内容は以下の通りである。

- 資料① 個人的体験と社会的体験<sup>19)</sup>  
 資料② 子どもの発達における相互作用の重要性<sup>20)</sup>  
 資料③ 「発達の最近接領域」とは<sup>21)</sup>  
 資料④ 教師が子どもを観察することの重要性<sup>22)</sup>

## 【授業の進め方】

進め方はほぼ [3] と同様である。個人のまとめのテーマは「ヴィゴツキーの考えを自分の言葉でまとめなさい」というものであった。

## 【授業の振り返り】

英語の理解が困難であったが、それゆえ、エキスパートグループで話し合い（相談）ができていた。学習が教師や仲間との相互関係の中で成立するものであること、「発達の最近接領域」が「自力でできることと、周囲の支援があればできることの距離」という内容理解はほぼできていたようである。

[5] 11月27日・28日 教育原理 後期 第8回 教育についての思想 (1) —コメニウス—

## 【資料の内容】

授業ではコメニウスの教育思想と学校構想を、彼の主著である『大教授学』（稲富栄次郎訳 玉川大学出版部 1956年）の抜粋から読み取る。その中で4段階の「学校構想」の部分について、ジグソー法を用いた。

- 資料① 母親学校  
 資料② 母国語学校  
 資料③ ラテン語学校

資料④ 大学<sup>23)</sup>

【授業の進め方】

レジュメに沿ってコメニウスの略歴と人間観を説明した後、彼の生涯を描いたDVD “Jan Amos Comenius (1592-1670)” (Gateway Films/Vision Video) の一部を観て、さらに教育観・学校構想を扱う。この学校構想をジグソー法で学び、図5-1のようなレジュメの表を各自で記入し、追加的に各段階での教育内容を3行程度でまとめた。

教育原理 (金1) ⑧ 2015年11月27日

**教育についての思想 (1)**  
—コメニウス—

**【コメニウス (Johannes Amos Comenius 1592-1670) チェコ語ではコメンスキー】**

『大教授学』(Didactica Magna 1632)  
(『大教授学』 稲富栄次郎訳 玉川大学出版部 1956)

略歴 (略)

『大教授学』について (略)

コメニウスの人間観 (略)

**コメニウスの学校構想**

段階	名称	対象年齢	訓練される能力	主な教育内容
1				
2				
3				
4				

コメニウスの教育論・学校論 (略)

『世界図絵』について (略)

図5-1 レジュメの一部 (11月28日も同じ)

【授業の振り返り】

「教育観・学校観」について共通の資料を事前に配付しており、そこでも「学校段階」について触れられていたので、純粹な形でのジグソー法ではなかった。各エキスパートグループの資料がA4一枚であったため、話し合いによる内容の確認はあまり行われなかった。また最後のまとめも、表を完成し、各段階での教育内容を整理するものであったので、自分の言葉で書くことにならなかった。資料から得られた情報をそのまま羅列するようなまとめ方は適切ではないということである。

[6] 12月1日 特別活動の研究 後期 第8回 学校行事(1)

【資料の内容】

都立高校の卒業式で国歌を斉唱しなかった教職員が、そのことを理由として退職後の再任用を拒否されたことに対して、損害賠償を求めて提訴した裁判の最高裁判所判決(2011年6月6日 第一小法廷)の本文の抜粋(全体の四分の三程度)を使用した。<sup>24)</sup>

資料① 事実関係と上告人(裁判を起こした教職員)の主張

資料② 裁判所の多数意見と判決の結論

資料③ 反対意見(1)

資料④ 反対意見(2)



## 【授業の進め方】

特別活動の一つの領域である学校行事については、「小学校祝日大祭日儀式規程」（1891〔明治24〕年）により定められた戦前の「学校儀式」や「唱歌」と、「君が代訴訟問題」とを扱っている。ここでは後者の部分でジグソー法を行った。<sup>25)</sup>

まず学校行事をめぐる問題として「卒業式などでの国歌斉唱問題」があることを紹介し、ここで取り上げる事件の経緯を図6-1のレジュメに沿って説明した。その後ジグソー活動に入った。結果を各自が図6-2の項目別にまとめ、提出した。

特別活動の研究（火5）⑧	2015年12月1日
学校行事（1）	
今日の内容	
「卒業式での国歌斉唱」をめぐる事件の最高裁判所の判決文を読みます。	
裁判の経緯	
2003（平成15）年10月23日 東京都教育委員会が「通達」で、卒業式などでの国歌斉唱を校長の職務命令で義務化、違反者には処分を行うこととする。	
2004（平成16）年・2005（平成17）年 職務命令に違反した教職員が退職後、再任用を申請したところ、職務命令違反を理由として拒否された。これに対して教職員13人が慰謝料（損害賠償）を求めて提訴した。	
2008（平成20）年2月7日 東京地方裁判所判決 都に損害賠償命令（「通達」や「職務命令」自体の違法性は認めなかったが、不採用は違法であるとした） → 都が控訴	
2010（平成22）年1月28日 東京高等裁判所判決 原告敗訴（採用拒否は「裁量の範囲内」で違法ではない） → 原告が上告	
2011（平成23）年6月6日 最高裁判所第一小法廷判決 [ ]	
進め方 「ジグソー法」に挑戦！	
1 4人グループ（ジグソーグループ）になる。	
2 担当の資料を決める。資料は担当者のみに渡します。	
3 ①の資料を担当した人のグループ（エキスパートグループ）を作り、資料を読み合う。 （②～④も同様）	
4 ジグソーグループに戻り、担当部分を説明し合う。	
5 各自でまとめを書く	
資料について	
最高裁判所第一小法廷 判決	
事件名 「再任用拒否」に対する損害賠償請求事件	
裁判年月日 2011（平成23）年6月6日	

図6-1 レジュメ

氏名

まとめ（提出してください）

- 1 この事件の概要    2 判決の内容（結論と理由）    3 反対意見の内容  
 4 この判決・反対意見についてのコメント  
 について自分の言葉でまとめてください。

図6-2 個人のまとめシート

## 【授業の振り返り】

判決文という学生にはなじみがない文章で、予想通り難しかったようである。だからこそ、エキスパートグループとその後のジグソーグループでの話し合いはかなり活発であり、資料全体の概要はほぼ理解されていた。ただ時間が足りず、最後の個人のまとめが十分にできなかった。各資料のバランスは良かったと思われるので、難易度に応じた全体の分量を考える必要がある。

## (4) 評価について

毎回の授業では出席カードを兼ねたリアクションペーパーの提出を求めているが、テストなどによる評価は行っていない。科目自体の評価は「平常点」と「期末レポート」で行っているが、今回のジグソー法の実践で残された大きな課題が評価である。毎回の授業での「個人のまとめ」と出席カードに書かれたコメントを見る限り、内容は概ね理解できていたと思われるので、今後は通常のグループワークと比較し、ジグソー法によって理解度や習得度がどのように変化するかを確認することが必要である。

ここでは評価に代えて、学生へのアンケートからジグソー法がどのように受け止められたかを見ていく。

後期の教育原理の授業（11月27日・28日）で図7のようなアンケートを行った。

## ジグソー法についてのアンケート

・通常のグループワーク（同じ資料を読み合う）と比べて、ジグソー法では…

- 1 授業への参加度は高まると思いますか。  
 ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらでもない  
 ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない
- 2 自分で考える場面は増えると思いますか。  
 ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらでもない  
 ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない
- 3 より主体的に学ぶことができると思いますか。  
 ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらでもない  
 ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない
- 4 より理解度は高まると思いますか。  
 ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらでもない  
 ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

ジグソー法のメリット（良い点）・デメリット（悪い点や課題）について思うことがあれば自由に書いてください。

図7 アンケート

回答は表1の通りであった。

表1 回答 (回答者 11月27日 15人 11月28日 15人 計30人)

問い	計					11月27日					11月28日				
	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤
1	9	12	6	3	1	1	5	6	2	1	8	6	0	1	0
2	17	8	4	0	1	4	6	4	0	1	13	2	0	0	0
3	10	11	6	1	2	1	6	6	1	1	9	5	0	1	0
4	11	13	3	2	1	2	8	3	1	1	9	5	0	1	0

1~4の各項目での肯定的評価(①・②)が多くなっているため、全体として効果があるのではないかと考えられる。興味深いのは土曜日(28日)のクラスでは肯定的評価が圧倒的に多いのに対して、金曜日(27日)のクラスではどちらでもない(③)が多く、否定的評価も若干見られることである。これは授業をしている時の実感とも一致しており、土曜日クラスの方が積極的に話し合う姿が見られた。同じことを行っているようでも、受講生の特性による違いが大きいことが分かる。

自由記述は以下の通りである。

[11月27日(金)]

- ・自分で考える場面が増えたことがいいことであると思う。
- ・デメリットとしてはそれが本当の答えかどうか分からない。メリットとしては考える力が身につく。
- ・時間がかかる。
- ・担当の人々が集まってもあまり話し合わないから、意義を感じられない。
- ・普段のグループワークでやっているときとあまり変わる気がしない。ひとつのポイントに絞れることで得られることもあるのだろうが、全体が見られないのでよく分からないまま議論することになることもある。
- ・担当したところ以外の理解度は下がるのではないか。

[11月28日(土)]

- ・自分の担当するところは詳しく知ることができるが、それ以外は簡略な説明でしか学べない点は少しもったいないと思います。
- ・デメリットは伝え方(捉え方)が悪いとみんなに間違えたことを伝えてしまうこと。
- ・自分が担当した部分は理解が深まるが、そうでない部分はあまり深まらない。
- ・積極的に理解しようと思える。
- ・他の人が言っていることを深く理解できない。でも要点がまとまっているから Good。
- ・メリット → 自分が理解しなければいけないので、理解力が深まるし、他人に教える、伝える力もつく。
- ・メリット: 参加度が高まる。

デメリット: 理解度が低下する。(特に、自分で調べていないところなど)

また12月1日の「特別活動の研究」でも「個人のまとめ」の最後でジグソー法について自由に書いてもらった。主な意見は以下の通りである。

[肯定的評価]

- ・もとの自分の班の人にきちんと伝えなければならないため、普段よりも責任感がうまれ良い話し合いができた。

こういった話し合いのしかたも良いと思った。

- 班で一つのものに取り組むと人任せにしがちになってしまうことも、自分が必ず意見などを発信しなくてはならないのでとても良いと思った。
- 自分のエキスパートグループだけでは、情報が断片的であったが、最後にジグソーグループで話し合うことにより、話の全容が見えるのが面白かった。
- 同じ部分の文章を共有しあい、理解しあい、より正確にその内容を理解してまとめることで、それぞれが班に戻った時に、よりスムーズにその話の筋を理解できるため良いと思った。普通のグループワークよりも意欲がわくと思うので良かった。

#### [否定的評価]

- 自分が読んでいなくて分からない情報を、他人と共有することで理解しやすい部分はあったが、一部しか読まないで概略がつかみにくくて難しかった。
- 全体の見通しがつかないのでやりにくい。
- 大変すぎる。

#### [その他]

- 要約する力と、自分の担当した部分を他者に伝える力が必要だと感じました。
- 人とのコミュニケーションをうまく取らないと難しいと思った。

さらに以下の A, B, C は前期の「教育原理」受講者に「ジグソー法について」自由に意見を求めたものへの回答の一部である。<sup>26)</sup>

A 「ジグソー法」は、私がとても新鮮に感じた授業方法でした。

まず、資料を読んで自分の担当する箇所の要約をし、そしてその資料の意図は何であるのかと読み取る作業は、自分自身の読解力を試されるものであり、いかにグループの人に自分の意識したものではない正確なものを伝えられるかという緊張感がありました。しかし、この作業があることで、他の人と読み合わせをしたときに、「あっ、この資料はこういう意味を表しているのだな。」と理解しやすく、授業に対する理解度が高まって嬉しかったです。

また、他の人と資料に関する意見交換をすることで、自身の視野を広げることが出来ました。私は、「ジグソー法」のような、アクティブな授業方法を体験する機会がなかなか無かったので、とても楽しく授業に臨めました。

教育に関しての話題は難しいものが多いので、様々な人といろいろな意見を交わしながら意見をまとめていくという「ジグソー法」は、とても良い方法だと思います。 (歴史文化学科 1年生)

B 私は、ジグソー法はグループ学習の際には効率的だと感じました。グループ皆で一つ一つの項目を調べていくよりも、分担することで、調べる時間がとても短縮されると思います。また、ただ分担するだけでなく、その項目ごとに、またグループができるので、一人で調べるのではなく、皆で考えられるという点も良いと思いました。

しかし、やってみて感じたのは、それぞれの項目をグループの中で一人の人が担当するので、その人がしっかり理解してこないとグループに戻ったときに困ってしまうということです。一人の人にかかる比重が大きくなると思いました。なので、できるなら一つの項目に二人ずついると気持ちが楽になるように思います。

(管理栄養学科 2年生)

### C【良かったところ】

- ・同じ班の人だけでなく、いろいろな班の人と話ができる。
- ・その班では自分しかそれについて話し合っていないので、自分がきちんと聞かないと思い、真剣に取り組める。
- ・英語の記事を読んだときに、国際学科や英コミの人たちがいてとても助かったりしました。なので一緒になった人のいいところがみつけれられる。
- ・自分だけの考えでなく、同じ記事を読んだ上でほかの人たちと意見交換ができるので一つの場所に対し一人の考え方ではなく、一つの場所に対し二人以上の考え方が出てくる。

### 【難しいところ】

- ・班のその部分担当の人がいないと厳しいものがある。
- ・担当の一部の人がわかっていないまま終わってしまうことがある。 (歴史文化学科 1年生)

## 3 実践の振り返りと問題点・今後の課題

今年度の取り組みを振り返ると、一定の成果が得られたと同時に、数多くの問題点と今後の課題が見えてきたと言える。

まず成果としては次のような点が挙げられる。

- (1) ジグソー法を実施する基本的な方法・手順を確認することができた。
- (2) 複数回実施したクラスでは、学生もある程度慣れてきてスムーズに行うことができるようになった。
- (3) すべての学生は担当する部分を説明する役割があるため、参加度の向上に一定の効果が見られる。学生からも一定の肯定的評価が得られている。とりわけ「グループのメンバーへの義務意識」と「コミュニケーション能力の重要性」が実感として理解されていた。

他方で問題点としては以下のものがある。

- (1) 最も大きな課題は、自分が担当しない部分の理解が十分でない(不安である)点である。これはジグソー法の一つの難点であり、実際にジグソー法の改訂版(ジグソーII)では、まず全員が全体の資料を読んでから、ジグソー活動に入ることとされている。しかし、今回実践したオリジナルのジグソー法では、担当部分しか手元にないからこそ、自らの担当部分を正確に理解し説明する責任感と、必要な情報を得るための聞き取り作業が重要になってくるとも言える。筆者の場合は、何らかの形で補足(次回での説明、英語の日本語訳の配布、資料全体の配布)を行って内容を確認したが、これを行う必要がないようにすることが重要である。
- (2) 次に、エキスパートグループで十分な話し合いができないことが多い。各自で資料を読むだけでは理解が深まらず、ジグソーグループで十分な説明ができないことになる。これは資料の内容(難易度)にもより、一人で読めそうなものであれば、あえて相談をする必要が感じられないのであろう。
- (3) 最後の「個人のまとめ」をどのようなものにするかも問題である。それぞれの説明を並べるだけでなく、それを踏まえて自分の言葉で整理するものにするのが重要である。

以上の問題を踏まえ、今後の課題と考えている点は以下の通りである。

- (1) 資料の難易度・内容をより検討し、「一人では難しいが、協力をすれば理解できる」レベルのものにすることで、エキスパートグループの活動を促す。
- (2) (1) のことを通して、ジグソーグループでよりよく説明できるようにし、資料全体の理解が深まるようにしていく。
- (3) 「個人のまとめ」を情報の列挙ではなく、「自分が理解してまとめる」課題とする。

なお学生の意見で他に「移動が面倒」「荷物が邪魔になる」というものが見られたが、手荷物を持って授業に臨むというスタイルが、ジグソー法実施の一つの障害であることが分かった。手荷物を置けるロッカーが各教室にあることが望ましいと思われる。

## おわりに

教職科目は多くの学科の学生が履修するため、学生同士の日常的な繋がりが少ない場合が多い。だからこそ授業の中で人間関係を作っていくことが重要になる。その点で、ジグソー法は通常のグループ学習よりも有効に活用できる方式であると考えられる。

今年度の実践ではまだ十分にジグソー法を活用するまでには至らず、問題と課題の確認にとどまったが、これも必要な一つのステップである。授業で積極的に取り組んでくれた学生の皆さんにお礼を申し上げるとともに、今後これを踏まえてより良い授業作りを行っていききたい。

なお本稿は平成 27 年度学長裁量研究費「教職科目におけるアクティブ・ラーニングの実践—ジグソー法を中心として—」の成果の一部である。この研究をとともに進めてくださっている昭和女子大学教育研究会のみなさんには心から感謝したい。

## 注

- 1) より詳しくは、Elliot Aronson, Shelley Patnoe *Cooperation in the Classroom: The Jigsaw Method* (Pinter & Martin Ltd 2011 年) を参照のこと。
- 2) Learning Through Discussion
- 3) 大学発教育支援コンソーシアム推進機構 (CoREF) が埼玉県教育委員会などと連携して進めている「知識構成型ジグソー法」はジグソー法を取り入れた独自のスタイルであるため、ここでは取り上げない。
- 4) グループは受講者名簿を使い、エクセルの「ランダム関数」を使って無作為に並べ替える方法で指定している。
- 5) 梅根悟他編『資料日本教育実践史 1』(三省堂 1979 年) p. 16
- 6) 同上 p. 18~19
- 7) 同上 p. 28~29
- 8) 谷内鴻「『小学生徒心得』の研究 (一): 「修身」・「国語」教育前段階としての相貌」(『國學院女子短期大学紀要 4』1986 年) p. 81~84
- 9) 設問以下記入欄となる。罫線を引いた A4 両面の用紙である。以下同。
- 10) <http://freeschoolnetwork.jp/wptest/wp-content/uploads/2015/06/houangaiyou.pdf> (2015 年 7 月 15 日参照)
- 11) <http://freeschoolnetwork.jp/wptest/wp-content/uploads/2015/06/0616yousei.pdf> (2015 年 7 月 15 日参照)
- 12) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/108/shiryo/attach/1359495.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/shiryo/attach/1359495.htm) (2015 年 7 月 15 日参照)
- 13) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/108/shiryo/attach/1359497.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/108/shiryo/attach/1359497.htm) (2015 年 7 月 15 日参照)

月 15 日参照)

- 14) 「中学校夜間学級等に関する実態調査について」は [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/yakan/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/yakan/index.htm) (2015 年 7 月 15 日参照)
- 15) 南新秀一・佐々木英一・吉岡真佐樹編著『新・教育学 [第 2 版]』(ミネルヴァ書房 2009 年) p. 30~32
- 16) 同上 p. 34~35
- 17) 同上 p. 35~36
- 18) 同上 p. 36~37
- 19) Carol Garhart Mooney *Theories of Childhood, Second Edition* (Redleaf Press 2013) p. 100~101
- 20) 同上 p. 101
- 21) 同上 p. 101~102
- 22) 同上 p. 102
- 23) 資料①~④ 稲富栄次郎訳『大教授学』(玉川大学出版部 1956 年) p. 252~255
- 24) [http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei\\_jp/378/081378\\_hanrei.pdf](http://www.courts.go.jp/app/files/hanrei_jp/378/081378_hanrei.pdf) (2015 年 11 月 26 日参照)
- 25) 「特別活動の研究」の内容については、抽稿「学校教育における特別活動の意義—教職科目『特別活動の研究』の実践から—」(『昭和女子大学現代教育研究所 2015 年度紀要』2016 年 2 月)を参照のこと。
- 26) 大学の「UP SHOWA」の「掲示登録」で、ジグソー法についての意見を求めた。(2015 年 11 月 20 日~12 月 5 日)

#### 引用・参考文献

- 蘭千寿 [1981] 「学級における児童の行動特性と集団構造の変容に及ぼす Jigsaw 学習の効果」(『九州大学教育学部紀要 (教育心理学部門)』26-1)
- [1983] 「児童の学業成績および学習態度に及ぼす Jigsaw 学習方式の効果」(『教育心理学研究 31-2』)
- 緒方巧 [2013] 「『ジグソー学習法』を用いた基礎看護技術演習」(『看護教育』54-5 5 月)
- 「ジグソーセッションで教師・学生が得られること」(同 54-6 6 月)
- 「基礎看護技術の『演習授業のまとめ』にジグソー学習法を用いる」(同 54-7 7 月)
- 国立教育政策研究所 [2015] 『教員養成教育における教育改善の取組に関する調査研究~アクティブ・ラーニングに着目して~』
- 筒井昌博編著 [1999] 『ジグソー学習入門—驚異の効果を授業に入れる 24 例—』(明治図書出版)

(ともの きよふみ 総合教育センター)